



同志社大学 エネルギー変換研究センター

R C E C S

Doshisha University

Research Center for Energy Conversion System

2024 年度 技術セミナー

「大気境界層乱流の物理—風力発電の効率化を見据えて—（応用編）」

日時： 2024 年 12 月 5 日 (木) 13:10~16:25

参加費無料

会場： 同志社大学 京田辺校地 恵道館 202

【申込方法】 ご氏名、ご所属（学部、研究室名）、ご連絡先電話番号、メールアドレスをご記入の上、

センターメール rc-ene@mail.doshisha.ac.jp までお申し込み下さい。

OR コードからもお申込みいただけます。



特別講師 ＊毛利 英明

（日本気象協会 参与 / 気象庁気象研究所 客員研究員）



「大気境界層乱流の応用研究：現状と展望」

大気境界層乱流は、我々の生活環境を構成するだけでなく、地球大気と地表とのインターフェースとしても重要で、特に近年は風力発電の普及もあり、研究の活発化が望まれている。本講演では、気象庁気象研究所における最近の研究、とくに気象予報モデルの高度化を見据えたグレーゾーン問題や地表面フラックス問題に関する研究、を紹介するとともに、今後の研究の方向性を議論したい。



山根 省三

（同志社大学 理工学部 准教授）



「地上気象観測データに見られる都市化の影響」

土地利用状況の変化は地上の気温や風、湿度の分布に影響する。ここでは、長期の地上気象観測データを用いて人工被覆域の拡大（都市化）が地上の大気環境に及ぼす影響を調べた結果を紹介し、その結果をもとに都市化と大気境界層の変化との関係を考察する。



稲垣 和寛

（同志社大学 理工学部 助教）



「Reynolds 平均型乱流モデルの基礎と応用：渦粘性から旋回乱流へ」

大気境界層をはじめとした高 Reynolds 数の乱流の効率的な計算には、小スケールの乱流渦運動を粗視化し、その物理効果を適切に表現した乱流モデルが必要となる。本講演では大気乱流においても用いられる Reynolds 平均型の乱流モデルの物理的背景に関する基礎から、風車後流のような旋回を伴う乱流への応用・発展を議論したい。



同志社大学 エネルギー変換研究センター

同志社大学 理工学部 物理学研究室 共催

詳細はセンターホームページにて「同志社 エネルギー変換」で検索

【お問合せ】 同志社大学 エネルギー変換研究センター

☎ 0774-65-7756 ✉ rc-ene@mail.doshisha.ac.jp

URL: <http://www1.doshisha.ac.jp/~ene-cent>